

サウジアラビア電子機器・家電製品研修所（SEHAI）協力事業 第4・5期生卒業式典開催の報告

サウジアラビア中央統計情報局（CDSI）によれば、2013年の同国の人口成長率は全体で2.7%、サウジアラビア人に限って言えば2.15%、また人口約3,000万人の内、自国民は約2,000万人となっています。2013年第4四半期サウジアラビア人の失業率は11.5%であるのに対して、非サウジアラビア人の失業率は0.2%にとどまっています。同じくCDSIのLabour Force Survey 2013（round 1）によれば、15歳から29歳までの自国民の労働人口（学生などを除く）は約169万人、この内就業している者は約121万人、失業している者は約48万人であり、この年齢層では失業率は28.4%に達します。14歳以下の人口が総人口の約31%を占めており（2010年、国連World Population Prospects, 2012 Revision）、今後も労働市場に自国民の若者が流入し続けることは明らかあり、同国政府にとり、特に若者ための雇用確保は最重要課題の一つとなっています。

当該課題に対処する為、同国政府は2つの政策を打ち出しています。1つは自国民の教育・職業訓練に力を注ぐことであり、もう1つ民間部門における自国民の雇用比率を上げる政策（Nitaqat Program）の実施です。

前者の教育・職業訓練については、本年度も国家予算の約25%をこの分野に充てています。具体的には8,550億サウジリアル（2,280億USドル）の国家予算の内、2,100億サウジリアル（560億USドル）がこの分野に充てられています。

後者については、所定の自国民雇用比率を下回る企業に対しては、外国人労働者の労働ビザ更新を制限し、自国民の雇用を促しています。この政策により2013年に外国人労働者が約100万人減少したと報道されており、自国民の失業率は12%台から上記の通り11%台に低下しています。

一方、我が国にとってサウジアラビアは輸入原油の約3割の供給元であり（石連統計2013年）、最大の原油供給国です。原油の長期安定的供給確保のためには、同国との良好な関係を維持し強化することは欠かすことができません。

この為、同国の最重要課題の一つである若者の雇用確保に協力する目的にて、サウジ自動車技術高等研修所（略称：SJAHI、2002年設立）、プラスチック加工技術高等研修所（略称：HIPF、2007年設立）に続き、日本は日本製電子機器・家電製品の修理・保守技術者を育成する2年制の職業訓練学校、サウジアラビア電子機器・家電製品研修所（略称：SEHAI）の設立（2009年）および運営に協力しています。

当該事業では、資源エネルギー庁から補助金を受け、弊センターが取りまとめ役となり、日本工学院八王子専門学校および日本家電メーカー9社（ダイキン工業・富士通ゼネラル・日立製作所・JVC ケンウッド・コニカミノルタ・パナソニック・シャープ・ソニー・東芝）のご協力を得て支援を行っています。まさに「産・官・学」が連携して支援を行っています。

SEHAI では主に日本の電子・家電メーカーと代理店契約を結んでいるサウジアラビア企業に雇用された若者が研修生として、基礎科目（物理・数学等）から実習を通して、対象製品の修理・保守技術を学んでいます。これまでに第1期生から第3期生計219名が卒業し、就職をしています。

本年5月11日に第4期生と第5期生の計107名の卒業式典が、ディライヤ県知事であるアハマド殿下ご臨席の下、盛大に開催されました（実際には卒業式典後、更に実習などを行い、また各所属先代理店でのOJTを経て、正式に卒業することになります）。

同式典には、日本側を代表して、小寺駐サウジアラビア特命全権大使及び弊センター中西常務理事が、またサウジアラビア側を代表して、ファハド SEHAI 所長及びアリ職業訓練公社（TVTC）総裁が祝辞を述べられました。

小寺駐サウジアラビア特命全権大使は、昨年4月の安倍首相のサウジアラビア訪問時および本年2月のサルマン皇太子の訪日時に、両国の協力関係の更なる強化が強調されたことを述べられ、SEHAI は両国の緊密な関係の好例であり、今後何年にもわたって SEHAI が良い技術者を世に送り出すことが期待され、またこれら卒業生が日本の職業倫理をひろめて両国の懸け橋になることを期待すると話されました。弊センター中西常務理事は、研修生達は SEHAI で職業倫理、規律、熱心に仕事に取り組むことの必要性を学んでおり、これらはサウジアラビア社会にとっても日本社会にとっても重要であることは共通している、また SEHAI の2年間は研修生にとって一生の宝になるであろうと話し、SEHAI の運営・教育に大いに尽力したファハド SEHAI 所長および職員に対し謝意を表明しました。

ファハド SEHAI 所長は、サウジアラビア側協力企業からの研修生採用需要は高く、SEHAI が電子機器・家電製品の保守・修理業界におけるサウダイゼーションのソリューションを提供していること、2名の SEHAI 卒業生が企業で就業経験を積んだ後、日本での研修を経て、SEHAI のジュニア・インストラクターとして働いていることを述べました、また経済産業省、サウジアラビア職業訓練公社、日本側協力企業、日本工学院八王子専門学校および弊センターからの支援に謝意を表明しました。最後に、アリ職業訓練公社総裁は、SEHAI のように研修所と企業が協力して雇用保障型研修所を運営することは大変重要であり、またこれら研修所は企業からの研修需要に効果的に対応することができるかと述べられました。さらに、SEHAI はサウジアラビアと日本、両国の企業そして両国の国民の好調な関係のシンボルであると話され、日本、関係企業、SEHAI マネージメントに謝意が述べられました。

上記出席者に加え、日本側からは、ご協力を頂いている日本企業の現地支社長・職員、大使館職員そして弊センターSEHAI 事業関係者が参列し、サウジアラビア側からは、ムハンマド・アルファイサリアグループ CEO（SONY 代理店である Modern Electronics 社の親会社・SEHAI 理事会理事長・直系王族）、サウード Alessa チェアマン（日立製作所代理店・SEHAI 理事会メンバー）、サウジ側協力企業のマネージメントなど多数が参列されました。

式典開催日の夜には、小寺駐サウジアラビア特命全権大使が日本側・サウジアラビア側双方の SEHAI 関係者を公邸での夕食会に招いて頂き、両国の SEHAI 関係者の交流が行われ

ました。

また式典の翌日には多数の現地紙に式典に関する記事が掲載されました。

本年度で日本が支援する職業訓練校の卒業生数は、上述の SJAHI、HIPF を含めて、約 3,500 名となり（卒業予定者を含む）、サウジアラビア産業界の発展にこれら日本的職業教育を受けた技術者が大いに寄与することが期待されます。

以上

